

帰国報告書

北海道教育大学岩見沢校大学院 2年

教科教育専攻・音楽教育専修

立岡 洵

留学先：ベルゲン大学グリーグ音楽院（ノルウェー）

私がノルウェーへの留学を考えた最初のきっかけは、学部三年次に参加した、作曲家である田中カレン特任教授による特別講義です。講義後の歓談の際、田中先生が「私の友人のピアニストが、ノルウェーのグリーグ音楽院というところで教えているんですよ」と、何気なく口にされました。

やがて学部から大学院に進学し、学生として勉強できる時間が残りわずかになってきた頃、それでもまだ学びたいことがあると感じていた私は、留学について本格的に考え出しました。色々悩みましたが、上述した先生の言葉が頭に残っていたこともあり、グリーグ音楽院への派遣留学に応募することに決めました。

きっかけこそ偶然の産物ではありましたが、ノルウェーという国は、私にとってとてもしっくりくる場所でした。

到着したばかりの当初、道はおろか言葉すら理解できずに右往左往していたところを、見知らぬ方が案内してくれたことをはじめ、おおらかで親切な人々が多かったように思います。自然豊かで美しい観光地としても有名で、時間がゆっくりと流れるベルゲンの街は、どこことなく北海道に似ている部分があり、すぐに親しみやすさを覚えました。

学業面では、先生と生徒の距離がとても近く、室内楽やレッスンでも活発な意見交換が行われる場面が多く見られました。留学当初はなかなか英語で思うように意思を伝えることができず、また相手が言わんとしていることを十分に理解することもできなかったため、大変な思いもしましたが、やがて少しずつ意思疎通ができるようになると、より充実した時間を過ごすことができるようになりました。

私が留学した2014・2015年は、ベルゲン交響楽団の創立250周年であるとともに、グリーグ国際ピアノコンクールの開催年でもあったため、多くの優れた演奏や講習に直に触れることができ、たくさんのことを学ぶことができました。またグリーグの家での彼のピアノを用いた演奏会や、ベルゲン国際音楽祭などをはじめとした、貴重な演奏の場も多く得ることができました。

当初はほぼ専攻分野についての勉強のみを念頭においてノルウェーに飛びましたし、実際に音楽的にも大きく成長することができたと感じています。しかし実際に留学生生活を終えた今最も強く思うことは、留学とは自分の専門分野についてのみならず、あらゆることについて学び、理解を深めることができる経験であるということです。

言語も文化も人種もそれぞれ全く異なる国で暮らすということは、語学や文化などの直接的な部分についてもそうですが、何より自分自身について改めて考えることに繋がります。特にノルウェー第二の都市として、多くの民族や思想の人々が集まるベルゲンでは、様々なことに気づか

されました。

こうした経験は、やがて自身の専攻分野にも活かされていくのではないかと思います。

もし留学について悩んでいる方がいらっしゃるのなら、専門分野をはじめとした多くの事について学ぶことができる素晴らしい機会として、私は留学を強く勧めたいと思います。

また今回の留学に際しましては、日本・ノルウェー両校の教授及び事務員の皆さんをはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。



世界遺産ブリッゲン



グリーグ国際ピアノコンクールのファイナル直前（グリーグホール）



冬のベルゲンの街並み



フロイエン山頂から見たベルゲンの街並み



グリーグの家